



中島根

令和6年3月1日
足立区立中島根小学校
校長 細川 靖雄
令和6年度3月号

全国の小学生は1か月に平均12～13冊の本を読んでいます

校長 細川 靖雄

時が経つのは早いもので、2月が終わります。新年を迎えて2か月が過ぎていきます。

さて、先月、年が改まる節目として、新たな目標を立てられた方は大勢いらっしゃるのではないのでしょうか。その中で、読書の目標を掲げられた方は、いらっしゃるでしょうか。

この度、読書に関するデータを紹介します。全国学校図書館協議会が、全国の小・中・高等学校の児童生徒の読書状況について毎年調査を行っています。昨年（令和4年）と今年（令和5年）の調査結果によると、以下のとおりでした。

	1か月の平均読書冊数	不読者～1か月の間に読んだ本が0冊の児童生徒
	令和4年 → 令和5年	令和4年 → 令和5年
小学生	13.2冊 → 12.6冊	6.4% → 7.0%
中学生	4.7冊 → 5.5冊	18.6% → 13.1%
高校生	1.6冊 → 1.9冊	51.1% → 43.5%

発達段階に応じて1か月の平均読書が増えていくのではなく、減少していく傾向にあります。そして、1か月の間に本を1冊も読んでいない割合は、発達段階に応じて増加していく傾向でもあります。

中高生ともなれば、他にやるが増え、限られた時間で読書をする時間を設けにくいことも考えられますが、普段から本を読まないという、読書習慣がなかったから本を読まないという理由ならば、小学生のうちから読書習慣を身に付けていくことで、減少させていくことはできるのではないのでしょうか。

本校の児童の場合、各月によって多少の増減はありますが、1か月に5～6冊の本を読んでいます。学校では、さらに読書習慣を身に付けていくために、以下のような取り組みを行っています。

- ・各教科等の時間における調べる学習として、知りたいことや興味・関心をもったことについての本を読んでもらう。
- ・国語の時間をはじめ各教科等において、友達がおすすめの本を教えたり、紹介し合ったりして読書の幅を広げていく。
- ・梅田図書館員や図書ボランティアの方々、本校教員による読み聞かせをしたり、本校図書館支援員によるオリエンテーションやブックトークをしたりして、本を手にする機会を設けることで本に触れ本を読んでみようとする雰囲気を醸成していく。
- ・図書ボランティアの方々のご協力により、古くなった本や傷みのひどい本1,850冊の廃棄作業の推進や学校図書館内の装飾等により、学校図書館へ行ってみたいくなるような環境を整えていく。
- ・全教員で選書し新規購入を進めることで新たな本との出会いを促すとともに、子どもたちがあだち読書通帳へ記載することで読書歴を自身の宝物として手元に残るようにしていく。
- ・雨の日やすきまの時間を活用して、自分の好きな本を読み進めていく。 等々

読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにしていくものと考えます。

保護者の皆様におかれましては、お子さんと地域の図書館と一緒に本を借りたり、イベントに参加したりして本に親しむ機会を設けていただけますと幸いです。また、ご家族で、今読んでいる本の話をしたり、お子さんが読んでいる本の内容のおもしろいところや感動したところなどの話を聞いたりして過ごす時間を設けていただけますと、読書への意欲付けにつながっていくと思いますので、その際には、ご協力をお願いいたします。

※図書ボランティアの皆様、子どもたちのためにご協力くださいまして、本当にありがとうございました。